

# 宮城県 公文書館だより

第7号

平成17年7月



収蔵資料の紹介「宮城球場スコアボード建築工事」	1頁
開館5周年記念特別展「旧仙台藩士の北海道移住」	2頁
市町村文書管理研修会・宮城県一口知識	3頁
関係機関から寄贈された主な図書	4頁

（昭和三十三年当時の宮城球場スコアボード写真）



（三十三〇一四）



## 収蔵資料紹介

### 宮城球場スコアボード建築工事

県営宮城球場は、昭和二十七年十月に本県内各地域を会場として第七回国民体育大会が開催されるに伴いメイン会場として宮城野原に整備されることになり、総合運動場の一施設として建設され、昭和二十五年五月に完成しました。

これまでプロ野球、高校野球などの県民利用に供されてきましたが、昭和六十年にメインスタンドが民間企業などの寄付によって一部改修されてきておりますものの内外野スタンドなどは老朽化が激しく全面改修が望まれていたところです。

平成十六年十一月宮城県を本拠地とするプロ野球球団として「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生し、平成十七年三月県営宮城球場が、「フルキャストスタジアム宮城」として新しく生まれ変わりました。このことによつて本県はもとより東北全体の地域活性化とスポーツ文化の向上発展につながるものと期待されております。

宮城球場のシンボルであったスコアボードも新しくなり、これまで名前など手書きで行っていた作業が不要となりました。

当館所蔵の宮城球場に関する当時の公文書が少ない中で昭和三十三年当時建築された「宮城球場スコアボード建築工事」の支出伺い（昭和三十三年五月発議）によれば、工事金額「壹百貳拾壹萬五千元」となっております。

旧仙台藩士の北海道移住

宮城県公文書館は、今年四月に開館五周年を迎えました。

平成十三年四月に開館し、このほど五年目を迎えたのを機に、なお一層公文書館の活動にご理解をいただきたいと考え、特別展「旧仙台藩士の北海道移住」を開催することと致しました。

明治初期、北海道に移住した亘理伊達家の領主伊達邦成はじめ旧仙台藩士が、主従一体となって厳しい条件の下で艱難辛苦の末に成功を収めました。

この特別展では、これらの北海道移住に関する旧仙台藩の文書や写真・絵図等を紹介しています。

六月二十五日には、宮城県図書館長の伊達宗弘氏を講師に迎え「仙台藩士と北海道開拓史」と題して記念講演をいただき、参加者からの好評を得ました。



(S011 0011)

当館で所蔵している主な展示資料

展 示 資 料 名	作成年度	摘 要
・刈田郡における帰農者数調	明治2年	御用留 4冊ノ4
・片倉家の家来の内帰農する者の取扱い	〃	明治己巳往復
・刈田・柴田・伊具・亘理・宇田五郡を南部藩へ引渡しを求められたことによる仙台藩重臣から弁官あての嘆願書	〃	
・「北海道移住遅延についての取調べよとの通知」に対する回答	明治3年	御達御届留明治3年公用局
・来春には大挙移住させたい旨の伊達藤五郎から儀部寮へあてた届	〃	〃
・伊達藤五郎等の旧家来で北海道移住をあきらめ帰農を望む者を帰農させたい旨願	〃	官省伺届 明治2～3年角田県
・白石城取り壊しの達依頼と伊達藤五郎等の旧居宅の取り扱いについて	〃	〃
・白石城の解体売却について	〃	〃
・移住人調	〃	〃
・伊達英橘北海道移住のため蒸気船拝借願	明治4年	両京状御用留 史生方
・北海道移住の際借用した三千両返納遅延につき下渡金願	明治5年	使府県掛合綴 明治5～6年磐前県
・北海道移住者の除籍通知伺	明治6年	使府県往復綴 二 磐井県第一課 戸籍係
・困窮者の帰農について	〃	使府県掛合綴 明治5～6年磐前県
・北海道移住者でまだ現地に居る者について	〃	〃
・開拓使官製の春蚕種の試験飼育に対する謝礼文	明治10年	官省使文章一太政官等
・北海道移住希望者に対する北海道の事情説明と移住する場合の心得諭達	明治16年	内務省農商務省達 土木課
・北海道移住志願者徴募	明治18年	本県告示 衛生課
・北海道移住に関する事績調査書	大正5年	

## 公文書管理保存研修会

平成十六年十二月十日(金)に、市町村合併等に伴う公文書の散逸や安易な廃棄を防止するため、市町村の文書管理担当職員を対象に研修会を開催いたしました。当日は、二十五市町村から二十八名の参加がありました。

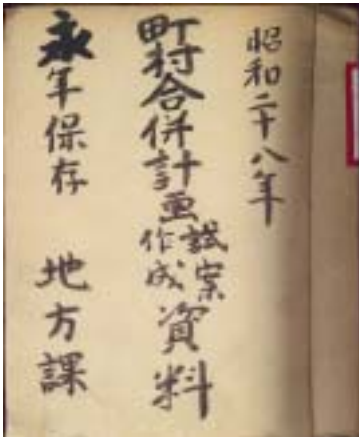
研修会は、始めに新潟県立文書館の主任文書研究員である中川浩宣氏から「市町村合併に伴う公文書保存のためのガイドラインについて」というテーマで講演をいただきました。

内容は、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会が行ってきたこれまでの取り組み(市町村に対する講座や研修会等)と公文書保存のためのガイドラインを何故作成するに至ったのかという経緯とそのガイドラインの具体的な内容について話していただきました。

また、情報提供として公文書館長より「歴史的・文化的価値のある公文書等の選別について」国や全史

料協の動きなどを基に報告がありました。

なお、研修終了後のアンケートでは、「ガイドラインについての話は、大変わかりやすく具体的な話を伺うことができ、非常にためになりました。」「合併の文書管理の打合せ中ですが、新市における管理の話はありますが、過去のもの話がありませんが、過去の文書保存の重要性を改めて考えさせられました。」など多数の意見が寄せられました。



(S二一八 二〇三二)

## 宮城県の一〇知識

### 宮城県に残る探検家白瀬轟の軌跡

明治の末に南極大陸を探検し、現在も南極観測船「しらせ」にその名を残す「白瀬轟(しらせのぶ)」が、一時期宮城県職員として働いていたことは、あまり知られていないようです。

白瀬轟は、文久元年(一八六一)、秋田県由利郡金浦村(現・金浦町)の生まれで、子供の頃に寺子屋の師から聞いた北極の話に感動して「北極を探検したい。」との夢を抱くようになり、お寺の後継ぎでありましたが、僧侶になつたのでは探検ができなくなるとの思いから軍人になる道を選んだといわれております。十八歳のときに陸軍の下士官養成機関であった教導団に入り、二年間学んだ後、明治十四年(一八八一)に伍長として仙台に赴任して来ました。

明治二十年に仙台の女性と結婚し、その後、二十六年に予備役となつて軍隊を離れ、二十九年までに二度にわたり千島探検を行うなど北極探検の準備を進めておりました。そして、それから十数年の歳月を費やすこととなりますが、四十二年から四十四年にかけて、南極探検(

前年、アメリカの探検家ピアリーに北極探検の先を越され、その目標を南極探検に切り替えた。)という快挙を成し遂げたのでした。

宮城県職員として在職していたのは、その十数年のうち明治三十二年十月から三十五年六月までの三年足らずの一期に過ぎない間でしたが、軍人また県職員など長い間仙台で過ごしており、轟にとって仙台そして宮城県は、第二の故郷とも言える土地であったのではないのでしょうか。



白瀬轟が起案した文書  
(M三三五 〇〇一六)

関係機関から寄贈  
された主な図書  
(敬称略)

- 『足利義満と東寺』 京都府立総合資料館
- 『いちはさまの文化遺産』 一迫町
- 『叡智の杜』 宮城県図書館
- 『学校教材史料集』 栃木県立文書館
- 『記録で辿る那覇の今・昔』 沖縄県公文書館
- 『ぐんまの資料』 群馬県立文書館
- 『市史せんだい 第十四号』 仙台市
- 『写真集 沖縄戦』 沖縄県
- 『善光寺道』 長野県立歴史館
- 『租税資料官報』 租税資料館
- 『東北大学百年史』 東北大学
- 『阪神淡路大震災 記録集成』 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
- 『美術工芸資料図録』 東北歴史博物館
- 『宮城県の近代化文化遺産』 宮城県
- 『宮城県の古建築』 宮城県
- 『宮城県の文化財』 宮城県
- 『ものしり大学院』 巨理町立郷土資料館
- 『豊の国のものづくり』 大分県立先哲史料館
- 『租税資料官報』 租税資料館
- 『東北大学百年史』 東北大学
- 『阪神淡路大震災 記録集成』 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
- 『美術工芸資料図録』 東北歴史博物館
- 『宮城県の近代化文化遺産』 宮城県
- 『宮城県の古建築』 宮城県
- 『宮城県の文化財』 宮城県
- 『ものしり大学院』 巨理町立郷土資料館
- 『豊の国のものづくり』 大分県立先哲史料館

( 図書名アイウエオ順 )

利用案内

開館時間

午前九時から午後五時まで

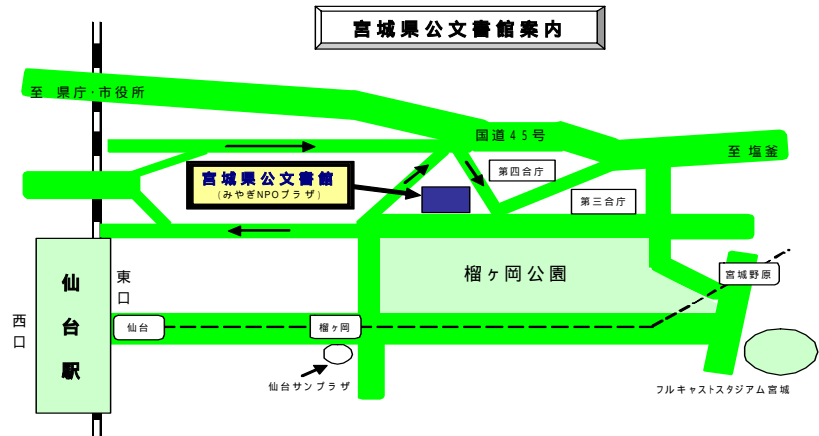
休館日

月曜日  
国民の祝日・休日  
(土曜日・日曜日に当たる日を除く)  
年末年始  
臨時休館(特別整理期間等)

交通のご案内

○電車の場合  
JR仙石線榴ヶ岡駅下車  
(徒歩7分)

○バスの場合  
仙台市営バス「宮城交通  
「第四合同庁舎前」下車  
(徒歩3分)



公文書館だより

第七号

平成十七年七月一日 発行

編集発行

宮城県公文書館

〒九八三-〇八五二

宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡五

〇二二-七九一-九三三三